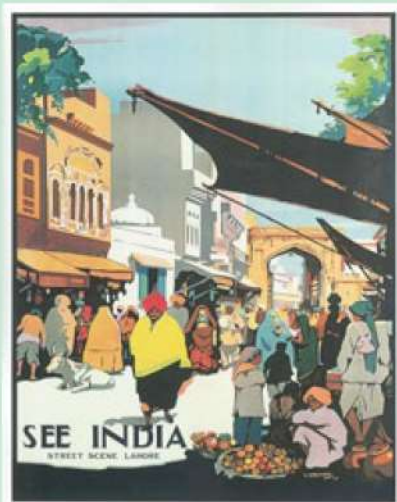


NO : 273
2021/7

パーキスターン



英領植民地期の観光と広告出版：
アンティーク・ポスターで旅するパキスタン
須永恵美子



パキスタンにおけるイスラーム宗教勢力 (2)
松田和憲

パキスタンから見た「中国パキスタン関係」

松田邦紀

最近のインド・パキスタン情勢
パキスタンから見た印パ停戦合意と
その後の両国関係

進藤雄介



カラーチー潮騒記
松田和憲

一枚の写真
パキスタンのパールスイー

中野勝一



かるたでつなぐ日本とパキスタン
すぎなみ karuta プロジェクト

◆ 目 次 ◆

令和2年度協会決算承認報告	(1)
英領植民地期の観光と広告出版： アンティーク・ポスターで旅するパキスタン.....	須永恵美子 (6)
パキスタンにおけるイスラーム宗教勢力 (2)	松田和憲 (11)
パキスタンから見た「中国パキスタン関係」	松田邦紀 (15)
最近のインド・パキスタン情勢 パキスタンから見た印パ停戦合意とその後の両国関係.....	進藤雄介 (20)
カラーチー潮騒記 1	松田和憲 (27)
かるたでつなぐ日本とパキスタン.....	すぎなみ karuta プロジェクト (31) (荻本和利、種岡祐子、高橋有美)
一枚の写真 パキスタンのパールスイー.....	中野勝一 (36)
人と食、それは愛。そしてパキスタン (その46).....	シャー真理子 (38)
2020-21年度のパキスタン自動車販売実績	(39)
パキスタン・ニュース.....	(40)

カラチー潮騒記 1

松田和憲

2021年5月より、在カラチ日本国総領事館の「草の根・人間の安全保障無償資金協力」外部委嘱員として業務に従事することになりました。京都大学の特任研究員の肩書を残しつつ、業務と研究の二足の草鞋を履きながらカラチー生活を堪能する予定です。パーキスタンに3か月以上長期滞在するのは初めての経験なので、現地生活を簡単に毎号報告できればと考えています。また2007年11月から2010年5月まで「ペシャーワル便り」の連載を15回続けておられた登利谷正人先生（2021年4月から東京外国語大学世界言語社会教育センター講師としてウルドゥー語を担当）に倣い、若手から見たカラチーを発信していく次第です⁽¹⁾。

.....

日本を離れることになった5月1日の夜、静寂に包まれた成田空港のエミレーツ航空のチェックインカウンターです。パーキスタンを感じていた。パーキスタン政府が全ての渡航者に対して登録を求めているスマートフォンアプリ「Pass Track」。この単語が周囲から聞こえてくれば間違いなくパーキスタンに渡航する人である⁽²⁾。数名が搭乗手続きを行っていたが、全員がPass Trackの登録確認を聞かれていた。このスマートフォンアプリがどこまで機能しているのかは不明だが、アプリを開いた時の画面は洗練された雰囲気があり、ITに力を入れようとしているパーキスタン政府の気概を感じることができる。また2021年2月1日からパーキスタン・ビザ申請がすべてオンライン化されており、パスポートの査証欄に押印される形ではなく、A4一枚の査証が



(1) 「カラチ便り」というタイトルは、すでに寺谷頼之さんが1983年3月の67号から1990年11月の115号まで不定期で計16回の連載で使用されておられたので、カラチー潮騒記としました。また「カラチ」は正式名称となっているものを除いて、ウルドゥー語の長母音の発音に忠実にカラチーとしました。

(2) 5月5日午前0時以降、出発前72時間以内のRT-PCR検査陰性証明書の提示も必須となった。

発給されるようになった⁽³⁾。

ドバイ発カラチー行に搭乗していた日本人は数名いた。機内はそこまで多くなかったものの、三分の一は埋まっていたように思う。後日知り合うことになるカラチー若手会のメンバーもちょうど同じ便に乗っていたのだが、全く気付かなかった。着陸して入国審査が終わった段階の荷物受け取りの前の受付?で、私の場合だけかもしれないが、サインとハンコが押された査証の紙が回収された。



ホテルからの眺め

6度目のパークスターン、5度目のカラチー、5月のカラチーはさすがに暑い。そしてラマダーン（断食月）である。空港からは宿泊先のアヴァリー・タワーの送迎車で移動した。多くの日本人に馴染みのあるホテルであるが、私にとって初めての高級ホテル@パークスターン。お湯が毎日しっかり出てくることに感動した。私のほかにJICA関係者や建設関連の方が宿泊しているようで、合わせて

10名程滞在していたようである。ただ直接お話しする機会に恵まれなかった。コロナ禍の影響で朝食等の食事は部屋でオーダーする形式になっていたのである⁽⁴⁾。基本的に朝はカレーとプラーター、オムレツを食べていた。断食月の間はお昼を抜いて、その日の断食が終わるイフタルの時間に料理を注文した。最近の昼食はオンラインフードデリバリーサービスでサブウェイを頼んでいる⁽⁵⁾。

この1か月の間でパークスターンらしい出来事が1つあった。それはパークスターンのラマダーン（断食）月が一日早く終了したことである。当初予定されていたイードゥルフィットル⁽⁶⁾は5月14日（金）であったものの、5月12日（水）の夜に新月が観測されたため、5月12日（水）の夜11時過ぎに、13日（木）がイードゥルフィットルであると

(3) パークスターンの e-VISA 申請方法（観光ビザ）に関しては、西遊旅行の BLOG「DISCOVER PAKISTAN」に2019年11月28日時点の記事がある。<https://www.saiyu.co.jp/blog/pakistan/2019/10/28/%e3%83%91%e3%82%ad%e3%82%b9%e3%82%bf%e3%83%b3%e3%81%ae-e-visa/>（以下全て WEB ページは2021年6月3日最終閲覧）

(4) 2021年4月以前はプールサイドでの朝食だったようである。また2021年6月7日からプールサイドでの朝食が再開された。

(5) オンラインフードデリバリーサービスには次回以降紹介したい。

(6) 断食明けの祝祭日で、ムスリムが多く住む国ではその前後が国の祝日になっている。

の声明がパーキスタン中央新月観測委員会から発表された⁽⁷⁾。イスラームの暦であるヒジュラ歴の1日は日の入りに始まり、日の入りに終わる。また月の初めは朔ではなく、三日月状の細い月が最初に見える日から始まる⁽⁸⁾。私は朝6時にドライバーからのメッセージを見て突然のラマダーン月の終わりを知り（正直なところこの段階ではまだ事態を把握できていなかった）、その後テレビやネットのニュースを見て何が起きたか理解できた。



左
オープンキッチン



右
新居からの眺め

本来であればカラーチーに到着してから1、2週間後に家探しが始まるのだが、このイー豆があったため5月下旬にやっと入居場所見学をすることができた。最初は家具付きの賃貸を探していたのだが、家賃の値段で折り合わず、結果的に家具無しの部屋に入居して、家具を揃えることにした。D.H.A.⁽⁹⁾にあるマンション群の13階で、現地駐在の日本人も多く住んでいる。私の部屋の一番の特徴はオープンキッチンで、オーナーが外国人（特に日本人）向けにリフォームしたとのこと。契約書や支払いはオーナーの邸宅で行ったが、彼は銀行のマネージャー（昨年退職）、奥さんは元会計士ということで、契約書の最終確認やお金の計上を2人でダブルチェックをしていたのが印象的だった。またこの時に午前11時の朝食をご馳走になった。

私自身料理は得意ではないのだが、オープンキッチンを機に料理のレパートリーを増や

(7) 各地で新月の観測が報告されたのち、パーキスタン中央新月観測委員会は4時間に及ぶ会議の末、5月13日（木）がラマダーン月30日ではなく、シャウワール月1日であるとの声明を発表した。
<https://www.dawn.com/news/1623500>

(8) ラマダーン月等の月初めの初日は、各国が委員会を作り聖職者が月の状態を目で見決めて決めることが多く、気象や視覚の問題もあり判断が異なっている。各国のヒジュラ歴事情に関しては、アジア経済研究所のヒジュラ（イスラーム）暦・西暦換算表が詳しい。https://www.ide.go.jp/Japanese/Research/Region/Mid_e/koyomi.html

(9) Defence Housing Authority の略。

したいと考えている。特に毎朝作りたいたいのはキチュリー（豆粥）である。昨年一年間、南禅寺塔頭寺院に下宿していた関係で、朝食にお粥を食べる素晴らしさを気付くことができた。キチュリーのレシピはキューピー3分クッキングのレシピがインターネット上に公開されているので⁽¹⁰⁾、これを自分流にアレンジしていきたい。キチュリーの他にカブリー・プラーオやキーマを日常的に作りたいたいと考えている。南アジア料理のレシピがネット上で簡単にアクセスできることに加え、近年では南インド料理店を経営する日本人が簡単に調理できるレシピ本を出版しており⁽¹¹⁾、少なくとも私にとって南アジア料理を作るハードルが下がってきている。

最後にパーキスターンが世界に誇るマンゴークの季節がやってきた。日本でもパーキスターンでもコロナのワクチン接種が始まったが、多くの人と語りながらマンゴークを食べることが可能になるにはまだまだ時間を要するので、今はマンゴーク農家や流通関係のパーキスターニー（パーキスターン人）を想像し、感謝の気持ちを常に忘れず一人美味しく頂く日々が続きそうだ。



今年初のマンゴーク

（まつだ かずのり・京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 特任研究員）

(10) <https://www.ntv.co.jp/3min/recipe/20130824/>

(11) 稲田俊輔, 2020『南インド料理店総料理長が教える だいたい15分!本格インドカレー』柴田書店